

文化財ニュース いわき

第 51 号

平成 8 年 4 月 25 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市中央台県立いわき公園内

TEL 0246(29)0391

発掘資料の永久保存を！

——遺物・調査記録の保存管理——

開発に伴う遺跡発掘後得られる資料には実にさまざまなものがあります。発掘調査は「記録保存のための発掘調査」であり、遺跡そのものを保存することが不可能な場合にやむを得ず発掘調査して、出土遺物及び調査資料を後世に残そうとするものです。遺跡は発掘調査及び開発によって失われるので最大限の情報を得ることが必要となります。一見のんびりと細かな作業を続けているように見える発掘風景も、細心の注意を払って一つでも多くの情報をそこから得ようとしているのです。細かい資料の一つに土中に含まれる花粉があります。花粉の大きさはミクロン単位（1ミリの千分の1）ですから



大量の発掘資料の中に埋もれての整理作業

もちろん1個ずつの採集はできません。しかしこの花粉分析結果が、^{はんじょうち}番匠地
^{いせき}遺跡には弥生時代に水田が存在したことを立証する一つの証拠となったので
 す。細かいと言えは製鉄遺跡における^{たんぞうはくへん}鍛造剥片があります。ひと口に製鉄遺
 跡といっても種々の内容を含みます。原料の^{さてつ}砂鉄を溶解するための^{せいてつろ}製鉄炉、
 そこには^{すみ}炭や^{はぐち}羽口や^{てっさい}鉄滓などがみられます。ここでできた^{てっかい}鉄塊を利用して、
 鉄製品を作り出す作業場もあります。真っ赤な鉄をハンマーで打って形を整
 えます。この時に小さな鉄片が四方に飛び散ります。これが鍛造剥片です。
 これもミリ単位なので^{にくがん}肉眼ではなかなか見つけられません。しかし、このよ
 うな^{びさい}微細な遺物をも見逃さないことによって、この^{いこう}遺構が^{かじせいてつ}鍛冶製鉄であるこ
 とを知ることができるのです。何トンも出土する鉄滓ですが、これの化学分
 析によって、原料の産地さえ推定できるのです。現在の科学水準ではわから
 ないことでも、出土遺物から今後明らかにされる内容は^{むじんぞう}無尽蔵にあるといっ
 っても^{かこん}過言ではないでしょう。遺物を大切に後世にまで伝えなければならな
 い理由の一つです。

発掘調査では、土器・石器をはじめとする多種多様な遺物が検出されます
 が、大切なのはこれだけではありません。調査によって得られる2次資料も
 また数多いのです。遺跡の調査前の^{ようす}様子や調査中の様子さらには調査後の様
 子は^{こくめい}克明にネガやポジのフィルムに記録されます。遺構の形態や遺物出土状
 況等もまた観察表や実測図にくわしく記録されます。

いわき市教育文化事業団でもこのような2次資料はかなりの量に達してい
 ます。ネガ写真・スライドフィルム・遺構実測図・遺物台帳・各種分析報告
 書等々です。現在のところは現物をそのまま保管しているのですが、当事業
 団のみならず、全国各地の^{るいじしせつ}類似施設では、これらの資料を正確に後世に残す
 ための^{ほうさく}方策を研究し始めました。なぜかと言いますと、フィルムは^{れつか}劣化を防

げません。^{やきつけしゃしん}焼付写真も変色・退色を防げません。年数がたつと線や文字は薄れていき、実測図は年々増えて量が膨大^{ぼうだい}になって、保存管理に広い面積が必要となるなどです。調査機関がこれら資料の保存問題に真剣^{しんけん}になる理由は、発掘の目的が「記録して保存する」という原点に立っているからです。

カラー写真を例にとってみましょう。ある県の埋文センターではスライド^{れっか}の劣化を防ぐため毎年数千枚をコピーして更新^{こうしん}しています。福島県文化センターの遺跡調査課では、フォトCDシステムを^{どうにゅう}導入し、デジタルデータとして保存する作業が進んでいます。さらにメーカーによるピクチャーMDシステムの開発等マルチメディアの分野はますます広がっています。これらの導入により、1枚のディスクに大量の情報を取り込むことが可能になりました。そうすれば、各種の写真も図面も台帳も大量の現物をそのまま保管する必要はなくなり、1枚のディスクの中に収まってしまうのです。文化財資料のマルチメディア化は始まったばかりですが、整理保管・情報検索いずれの面からみても、優れていると言わざるを得ません。

新 刊 案 内

※頒価・送料等の問い合わせは事業団まで。

❖ 『^{ばんじょうちいせき}番匠地遺跡 ——水田跡の調査——』

平バイパス関連で発掘調査した遺跡の報告書。平成5年3月刊行の「^{くぜ}久世
^{はらたて}原館・番匠地遺跡」に隣接する地点の報告書。

❖ 『^{はらだかまあと}原田窯跡 ^{はらだ}原田C遺跡 ——^{いせき}古代窯跡・近世屋敷跡の調査——』

常磐道関連で発掘調査した遺跡の報告書。今回調査地点には窯跡は存在し
なかったが、布目瓦等が検出されている。

❖ 『研究紀要 第7号』

④『市制施行30周年記念・いわき恐竜フェア』

今夏、いわき明星大学前空き地を特設会場として開催されます。会場はメーンパビリオンとアミューズメントで構成されます。

名称は「海と太古の恐竜博・ダイナフェスタ」となります。恐竜骨格を中心とした展示会では、オーストラリア国外初展示となるオパール化した恐竜「エレキ」が、目玉として出品される予定です。また期間中・恐竜研究で名高いデイビット・ノーマン博士（イギリス）を招いての「いわき恐竜シンポジウム」が、いわき明星大学で開催されます。

④『(仮称)いわき市暮らしの伝承郷』

いわきの古い民家と民具を保存活用し、農業体験のできる施設として建設が進められています。防火水槽設置等の工事に続き、今年度は民家数棟の再建作業が始まります。今後管理棟を建設し水田・畑も設置する予定です。

④『(仮称)いわき市ふるさと歴史体験館』

古代の知恵・習慣を体験学習でき、地域の歴史文化を受け継ぐ拠点となる施設です。今年度から2カ年計画で建設工事が始まります。場所は常磐藤原町となります。

④『本年度主要発掘調査(○)・整理作業(◎)』

常磐自動車道いわき中央～四倉間(◎◎)、白岩バイパス(◎◎)、久之浜バイパス(◎◎)、常磐バイパス(◎)、平バイパス(◎)、主要道小名浜～小野線(◎)、泉第三土地区画整理(◎◎)、東北電力送電線(◎)。他に市埋蔵文化財発掘出土品等整理作業や、根岸遺跡のように年次計画をたて国庫補助を受けての範囲確認調査があります。